

もうすぐ年末帰省・おでかけシーズン！交通安全&チャイルドシートに関するママへの調査
実は傷害の程度が高くなりやすい「側面衝突」
ママの3人に1人はヒヤリハット経験者にもかかわらず、理解は1割
「側面衝突」に対応した「新安全規則 R129^{*1}」を知らない人も約半数

アップリカ・チルドレンズプロダクツ合同会社（本社：大阪市中央区、社長：前田英広）は、年末の帰省やおでかけシーズンを前に、ママたちの交通安全に関する経験・意識、およびチャイルドシートに関する意識を調査しました。今回は特に、傷害の程度が高くなりやすい「側面衝突」と、それに対応したチャイルドシートの「新安全規則 R129^{*1}」に注目して調査しました。

実施概要

調査方法：インターネットを利用したアンケート調査（アップリカ調べ）

実施期間：2018年9月18日～10月10日

対象：全国（北海道、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、愛知県、京都府、大阪府、兵庫県、福岡県）在住の2才以下の子どもがいる、かつ車を月1回以上利用している、20歳～39歳の女性

有効サンプル数：312

調査結果ダイジェスト

- **ママの3人に1人が傷害の程度が高くなりやすい「側面衝突」に関するヒヤリハットを経験している。**
- **にもかかわらず、側面衝突への理解は13.3%と低い。**
- **最新のチャイルドシートの「安全規則」について知らない人が約5割いる。**
- **日常的に安全を確保するためにチャイルドシートが必要と思っているママが少ない。**
- **チャイルドシートは、安全基準を満たしていればいいと回答したママのうち、約8割が、「どのチャイルドシートも同じように安全」と思っている。**

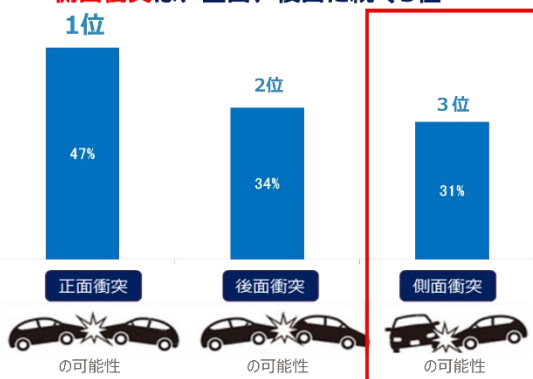
■ママたちの交通安全に関する経験・意識

まず、ママたちの交通安全に関する経験・意識を調査しました。車に乗っていてヒヤリとした出来事を聞いたところ、正面衝突、後面衝突、側面衝突（ドア側からの衝突）の可能性という順になりました。側面衝突の可能性は、3番目に多いヒヤリとした出来事で、約3人に1人が感じたことがあるという結果になりました。

交通事故を傷害の程度別に見た場合、軽傷、重傷、死亡事故と進むにつれ、原因が側面衝突である割合が増えます（12.8%→20%→28.5%）*。側面衝突は起きた場合に重大事故につながりやすい、注意すべき事故といえます。

*参考文献「日本における側面衝突事故の分析」（日本自動車研究所『自動車研究、2008』）より、車両相互事故の場合。

車に乗っていてヒヤリとした出来事 側面衝突は、正面、後面に続く3位

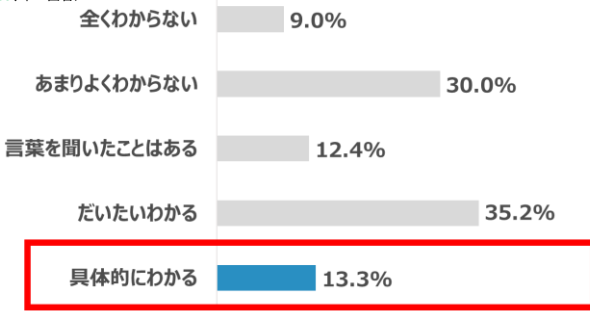


(N=312、複数回答)

つまり、ママの3人に1人が
車のドア側が衝突する(側面衝突)
可能性を感じるがあったと回答



質問：「側面衝突」について具体的にわかりますか？
(N=233、単一回答)



「側面衝突」について「具体的にわかる」と、理解している人は**少数派**

この注意したい「側面衝突」ですが、具体的にわかるかどうかという問いに対し、ママたちの理解は**13.3%**と低いものでした。

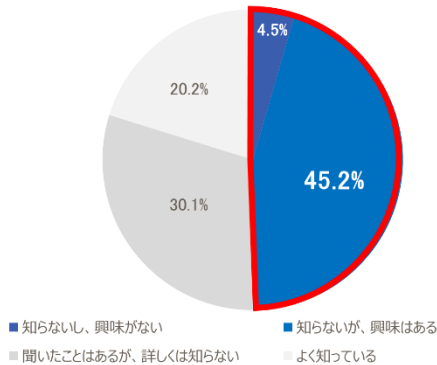
ちなみに、全国の中でも、東京都のママは側面衝突のヒヤリハットの体験は4割以上で、全国の3割に対してやや高い状況です。東京都のママは、側面衝突への理解に対しても4割が理解しており、全国の平均13.3%に対して大きく上回っています。

■ママたちのチャイルドシートに関する意識

次に、ママたちのチャイルドシートに関する意識も調査しました。チャイルドシートには、安全性に関する複数項目の試験に合格した製品が認可を付与される「安全規則」というものがありますが、その最新安全規則についての認知度を調べたところ、**知らない人が約5割**という結果となりました。

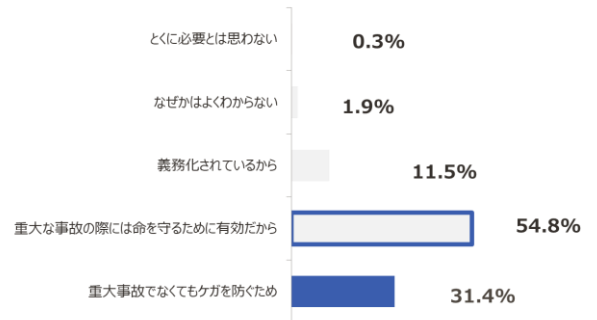
また、そもそもなぜチャイルドシートは必要かを尋ねたところ、重大事故からの命を守るために必要と感じているママは54.8%に対して、重大事故でなくてもケガを防ぐためと回答したママは31.4%で、**日常的に安全を確保するためにチャイルドシートが必要だと思っているママは少ない状況**でした。

質問：チャイルドシートに最新の安全規則があることを知っていますか？
(N=312、単一回答)



最新の安全規則があることについて知らない人が**約5割**

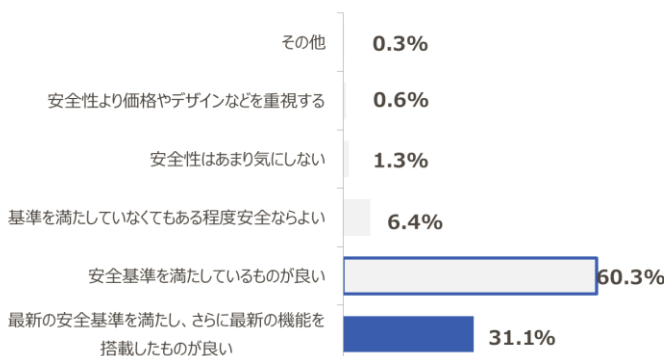
質問：チャイルドシートはなぜ必要ですか？
(N=312、単一回答)



重大事故でなくてもケガを防ぐためといっているママは**31.4%**

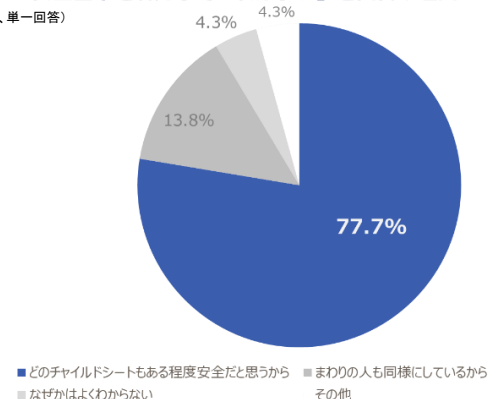
また、チャイルドシートの安全性については、安全基準を満たしているものがよいと回答したママは60.3%に対して、**最新の安全基準を満たし、さらに最新の機能を搭載したものが良いと回答したママは31.1%**で、最高水準を要求するママは少ないといえる状況でした。この質問の中で「安全基準を満たしているものがいい」と回答したママの**約8割は、どのチャイルドシートも安全面で違いがない**と思っていることもわかりました。

質問：チャイルドシートの安全性についてどのように考えていますか？
(N=312、単一回答)



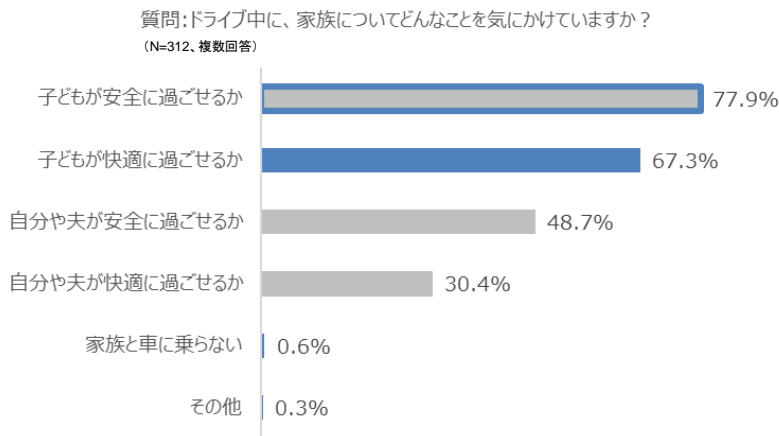
しかも、最新の安全規則、つまり最高水準を要求するママは**31.1%**

質問：「安全基準を満たしていればよい」と回答の理由
(N=188、単一回答)



ママの**約8割は**「どのチャイルドシートも安全面で違いがない」と認識している。

■ママたちが他に車に乗っていて気にしていること



なお、ドライブ中に、家族についてどんなことを気にかけているかについても聞いたところ、トップはやはり「子どもが安全に過ごせるか」でした。そして、2位には、「子どもが快適に過ごせるか」がランクイン。安全と快適、両面に気を配っていることがわかりました。

■今回の調査結果を受けて

今回の調査で、いまどきのママの多くは、危険な事故に対する理解や、チャイルドシートへの意識がまだ高いとはいえ、どのチャイルドシートも同じように安全だと思っていることが浮かび上がりました。アプリカではこの事実を受け止め、ママたちに、交通安全と子供を守るためのチャイルドシートへの理解をより深めていただける一助となるような活動を店頭、WEB サイト等で展開いたします。

また、今年発売の新製品、最新安全規則適合の「フラディア グロウ ISOFIX 360° セーフティー プレミアム」をはじめ、お子さまの安全と快適性を両立した“最上級の安全”を備えた製品をお届けしたいと考えております。

(製品情報 URL : <https://www.aprica.jp/products/childseat/fladeagrow/>)

【ご参考】

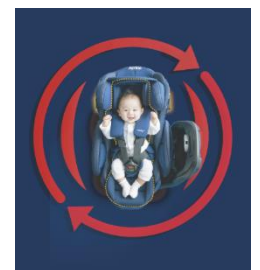
【チャイルドシートの最新安全規則 R129^{※1} とは】

「R129^{※1}」は、ヨーロッパ発祥の、チャイルドシートに関する最新の安全規則です。安全性に関する複数項目の試験に合格した製品が認可されます。車は、前後より側面（ドア側）からの方が衝撃を直接受けやすいため、これまでの安全規則「R44」に替わり、前後からだけでなく側面（ドア側）からの衝撃に対しても、赤ちゃんの安全性を確認するために、新たに側面衝突試験が規則化されています。

【アプリカの製品開発】

アプリカでは、日本で初めて最新安全規則「R129^{※1}」に適合し、赤ちゃんを 360° 全方位から守ることが特長の回転式チャイルドシート「フラディア グロウ ISOFIX360° セーフティー」を新発売します。2018 年 12 月上旬から全国のベビー用品専門店・百貨店・ネットショップなどで販売します。(<https://www.aprica.jp/products/childseat/fladeagrow/>)

今回の新製品は、赤ちゃんが呼吸しやすい「平ら」なベッド型^{※3}にもなるチャイルドシートに、側面（ドア側）からの衝撃も考慮した国際的な最新安全規則「R129^{※1}」を取り入れ、両サイドに装備された頑丈なプロテクターの「サイドシールド^{※2}」とヘルメットのような構造の「全身マモールクッション」を新たに装備したものです。赤ちゃんのことを第一に考える企業として、最新の安全性能とアプリカが考える快適性を両立させた最上級の安全を追求しました。



* 画像は全てイメージです。

■「サイドシールド」と「全身マモールクッション」を装備

赤ちゃんを 360° 全方位からしっかり守ります。

① 「サイドシールド」前向き/後ろ向き使用時に有効です。

両サイドに装備された頑丈なプロテクターで、ドア側からの強い衝撃から赤ちゃんをより安全に守ることができます。



- ② 「全身マモールクッション」「平ら」なベッドで使用時に有効です
 頭部を包み込むヘルメットのような構造のクッション、からだの側部を守るサイドクッション、さらに足まで包み込むことで、「平ら」なベッド時に赤ちゃんの未熟なからだを徹底的に守ることにこだわっています。



■「R129※1」で赤ちゃんをしっかり守る

① 前後だけでなくドア側の衝撃からも守れる

「R129※1」では、直接衝撃を受けやすい側面（ドア側）からの衝突試験が規則化。さらに安全に赤ちゃんを守れるようになりました。



② 身長に合わせて使うからよりフィットして安全

体重に合わせて使うこれまでの規則から、個人差の少ない身長で合わせるようになったため、より赤ちゃんにフィットして安全です。

③ 未熟なからだをより長期間※4 後向きシートで守る

からだの未熟な赤ちゃんにとって、前向きより衝撃の負担が少ない後向き※5での使用期間が延長。さらに長くしっかり守れるようになりました。

④ 未熟なからだへの影響も考えているから安全

より人体に近い新生児ダミー人形で衝撃試験を実施。衝撃による影響度が「R129※1」規則の安全な範囲内に収まるように考えられているから安心です。

⑤ 「ISOFIX」で確実に取り付けできるから安全

黄色のコネクターを差し込むだけで、カンタン確実に取り付けできます。誤った取り付けを防いで、より安全に赤ちゃんを守れます。



*画像は全てイメージです。

【フラディア グロウシリーズの特長】

「フラディア グロウシリーズ」は、「赤ちゃんを守る」だけではなく、赤ちゃんに理想的な「平ら」な姿勢を保つことができ、回転型チャイルドシートの中でもアプリカ独自の「平ら」なベッド型※3でもあります。赤ちゃんの脳の重さは体重の約10%ありますが、首の筋肉が未発達なので「平ら」な姿勢でしっかり支えてあげることが重要です。また、おなかや気道のちょっとした圧迫や姿勢の変化で呼吸が不安定になりやすいため、「平ら」に寝かせてあげることが必要です。また、首がすわってきたら、ゆったり座れる後ろ向きシートに、しっかり座れるようになったら、前向きシートにと、3ステップに変形できます。

製品名	フラディア グロウ ISOFIX 360° セーフティー プレミアム	フラディア グロウ ISOFIX 360° セーフティー
メーカー希望小売価格	69,000円(税込74,520円)	64,000円(税込69,120円)
製品情報 URL	https://www.aprica.jp/products/childseat/fladeagrow/	

※1：UN規則 No. 129（改良型幼児拘束装置）

※2：サイドシールドは前向き/後ろ向き使用時に有効

※3：背もたれと座面の内角が150°以上に倒れるリクライニング構造。

※4：旧規則（R44）では使用期間の制限が体格のみ（体重9kg以上）であり、月齢12ヶ月頃から前向き使用が可能であったが、最新規則（R129）では、体格の制限（身長76cm以上）のみならず明確に月齢の制限が定められており、15ヶ月を超えるまで前向きで使用することを禁止されていることによる。

※5：前面衝突時には赤ちゃんが背もたれ全体で衝撃を受けるので前向きより、後ろ向きの方が衝撃からの負担が軽減される。

【お問い合わせ先】

アップリカ・チルドレンズプロダクツ合同会社 お客様サポートセンター
 TEL：0120-415-814 受付時間：AM10:00～PM5:00（土、日、祝日、弊社所定休日を除く）